

清和堂明朝体 L

印刷技術が発明されて以来、写本による工芸手法から活字印刷複製という工業技術に移し変えられた文字たちは、組版に適した機能性をもとめられ、単なるカリグラフィーに留まらない、精密かつ機能化された形態に設計することが必要になりました。カリグラフィーとタイプフェイスデザインの歴史的分岐点です。デザインの中には「整理する」という意味も含まれ、活字の形態を、文章を読むための部品としていかに機能化・規格化し整理するかという事が重要になります。しかし同時に写本から息づく肉筆のストロークが読むという行為と密接に関係している事も理解しそのテイストを十分に反映させなければ、決して良い活字を作り出す事はできません。清和堂明朝体は機能化・規格化と肉筆ストロークの両面のバランスを適度に融合させるように心がけ、それぞれの文字を粒ぞろいの精密な部品として作成する事に留意しました。このカタログでは実際の組版を再現し、仕上がりイメージのご参考にさせていただければ幸いです。

田舎教師

田山花袋

一

四里の道は長かった。その間に青縞の市のたつ羽生の町があった。田圃にはげんげが咲き、豪家の垣からは八重桜が散りこぼれた。赤い蹴出しを出した田舎の姐さんがおりおり通った。

羽生からは車に乗った。母親が徹夜して縫ってくれた木綿の三紋の羽織に新調のメリンスの兵児帯、車夫は色のあせた毛布を袴の上にかけて、梶棒を上げた。なんとなく胸がおどった。

清三の前には、新しい生活がひろげられていた。どんな生活でも新しい生活には意味があり希望があるように思われる。五年間の中学校生活、行田から熊谷まで三里の路を朝早く小倉服着て通ったことももう過去になった。卒業式、卒業の祝宴、初めて席に侍る芸妓なるものの嬌態にも接すれば、平生むずかしい顔をしている教員が銅鑼声を張り上げて調子はずれの唄をうたつたのを聞いた。一月二月とたつうちに、学校の窓からのぞいた人生と実際の人生とはどこことなく違っているような気がだんだんしてきた。第一に、父母からしてすでにそうである。それにまわりの人々の自分に対する言葉のうちにもそれが見える。つねに往来している友人の群れの空気もそれぞれに変わった。

ふと思いついた。

十日ほど前、親友の加藤郁治と熊谷から歩いて帰ってくる途中で、文学のことやら将来のことやら恋のことやらを話した。二人は一少女に対するある友人の關係についてまず語った。

「そうしてみると、先生なかなか執心なんだねえ」

「執心以上さ！」と郁治は笑った。

「この間まではそんな様子が少しもなかったから、なんでもないと思っていたのさ、現にこの間も、『おおいに悟った』ッと言うから、ラヴのために一身上の希望を捨ててはつまらないと思つて、それであきらめたのかと思つたら、正反対だったんだね」

「どうや」

「不思議だねえ」

「この間、手紙をよこして、『余も卿等の余のラヴのために力を貸せしを謝す。余は初めて恋の物うきを知れり。しかしして今はこのラヴの進み進まんを願へり、Physical なし……』なんて言ってきたよ」

この Physical なしという言葉は、清三に一種の刺戟を与えた。郁治も黙って歩いた。

郁治は突然、

「僕には君、大秘密があるんだがね」

その調子が軽かったので、

<清和堂明朝体 L コンセプト>

「本文用のごく普通の明朝体」。実はフォント制作の中で最も難しいと言われています。その結果、販売されている書体数もごく限られています。清和堂はあえてこの「ごく普通の明朝体」にこだわって制作いたしました。構想からの制作期間五年。このたび真っ直ぐで大らかなフォルムの明朝体、清和堂明朝体Lが完成いたしました。高純度でありながらやさしいイメージと評価をいただいております。しっかりと安定していて読みやすい印刷用明朝体として、安心してお使いいただけます。一点、一画の太さや形状を調整し、「奇をてらわれない普通であること」の価値を十分に味わっていただけるものと思っております。13Q 前後の本文組みで最も読みやすくなるように設計してありますので、文庫や雑誌、カタログの説明文など、本格的な長文組版での使用に最適です。

田舎教師

田山花袋

一

四里の道は長かった。その間に青縞の市のたつ羽生の町があった。田圃にはげんげが咲き、豪家の垣からは八重桜が散りこぼれた。赤い蹴出しを出した田舎の姐さんがおりおり通った。

羽生からは車に乗った。母親が徹夜して縫ってくれた木綿の三紋の羽織に新調のメリンスの兵児帯、車夫は色のあせた毛布を袴の上にかけて、梶棒を上げた。なんとなく胸がどつた。

清三の前には、新しい生活がひろげられていた。どんな生活でも新しい生活には意味があり希望があるように思われる。五年間の中学校生活、行田から熊谷まで三里の路を朝早く小倉服着て通ったことももう過去になった。卒業式、卒業の祝宴、初めて席に侍る芸妓なるものの嬌態にも接すれば、平生むずかしい顔をしている教員が銅鑼声を張り上げて調子はずれの唄をうたつたのを聞いた。一月二月とたつうちに、学校の窓からのぞいた人生と実際の人生とはどこことなく違っているような気がだんだんしてきた。第一に、父母からしてすでにそうである。それにまわりの人々の自分に対する言葉のうちにもそれが見える。つねに往来している友人の群れの空気もそれぞれに変わった。

ふと思いついた。

十日ほど前、親友の加藤郁治と熊谷から歩いて帰ってくる途中で、文学のことやら将来のことやら恋のことやらを話した。二人は一少女に対するある友人の關係についてまず語った。

「そうしてみると、先生なかなか執心なんだねえ」

「執心以上さ！」と郁治は笑った。

「この間まではそんな様子が少しもなかったから、なんでもないと思っていたのさ、現にこの間も、『おおいに悟った』ッと言うから、ラヴのために一身上の希望を捨ててはつまらないと思つて、それであきらめたのかと思つたら、正反對だったんだね」

「そうやね」

「不思議だねえ」

「この間、手紙をよこして、『余も卿等の余のラヴのために力を貸せしを謝す。余は初めて恋の物うきを知れり。しかして今はこのラヴの進み進まんを願へり、Physical なし……』なんて言ってきたよ」

「この Physical なし」という言葉は、清三に一種の刺戟を与えた。郁治も黙って歩いた。

郁治は突然、

「僕には君、大秘密があるんだがね」

その調子が軽かったので、

<清和堂明朝体 L コンセプト>

「本文用のごく普通の明朝体」。実はフォント制作の中で最も難しいと言われています。その結果、販売されている書体数もごく限られています。清和堂はあえてこの「ごく普通の明朝体」にこだわって制作いたしました。構想からの制作期間五年。このたび真っ直ぐで大らかなフォームの明朝体、清和堂明朝体Lが完成いたしました。高純度でありながらやさしいイメージと評価をいただいております。しっかりと安定して読みやすい印刷用明朝体として、安心してお使いいただけます。一点、一画の太さや形状を調整し、「奇をてらわれない普通であること」の価値を十分に味わっていただけるものと思っております。13Q 前後の本文組みで最も読みやすくなるように設計してありますので、文庫や雑誌、カタログの説明文など、本格的な長文組版での使用に最適です。

<アルファベット>

ABCDEFabcdef

<アルファベット（半角）>

ABCDEFabcde

<仮名文字（半角）>

あいうえおかきくけこアイウエオカキクケコ

<キリル文字>

А Б В Г Д Е Ё Ю а б в г д

<ギリシャ文字>

Α Β Γ Δ Ε α β γ δ ε

<ローマ数字>

I II IIIIV V VI

<その他記号類>

①②③④⑩⑪❶❷❸❹❺

ミリキロセンチグラム

(株)(有)明治大正昭和(優)商標

√ ⊥ ∠ ⊥ Σ

◁ ↓ ⇨ ♣ ♥ ♠ ♦ ☎ ㊦ ㊧ → ● ♠ ♥ ♣ ♦ ☀ ☁ ☂ 🧑 👉

mm²mm³km³sec³cal kcal

Font Sentence Catalogue

vol.6

2008/9/10

清和堂フォントデザイン室